

奥の細道むすびの地 大垣 城下町大垣観光マップ



おがきじょう

6 大垣城(郭町2)

大垣城は、天文4年(1535)、宮川吉左衛門尉安定が築城した(明徳9年竹腰彦五郎綱網の築城とも伝えられる)といわれ、水門川の流れを外堀に利用して築かれた。関ヶ原の戦いの前には、西軍石田三成の本拠地ともなった。寛永12年(1635)、戸田左門氏鉄が入城し、その後、11代にわたる善政が続いた。



1 掘抜井戸発祥の地(岐阜町)
天明2年(1782)岐阜町のこんにやく屋七が、穴を掘り竹を打ち込むと水が噴出したという井戸。



2 大垣藩校敬教室跡(東外側町2)
第8代藩主戸田采女正氏庸は藩士の子弟を教育するため天保11年(1840)、辰之口門外に学問所を創設し、のちに致道館、さらに敬教室と改称した。第10代氏彬のとき規模を拡大し多くの学者・文人を生んだ。



3 八幡神社(西外側町1)
中世には大井荘と呼ばれ東大寺領であったため東大寺の鎮守を勧請して建てられた。また、戸田左門氏鉄が八幡神社を再建整備したおりに、城下町の町民が喜び軸を造って曳いたのが、5月に行われるユネスコ無形文化遺産大垣まつりの軸の起源だと言われている。



4 圓通寺(西外側町1)
戸田氏の菩提寺として近江膳所ヶ崎で創建され、その後尼崎を経て寛永12年(1635)、現在地に建立された。

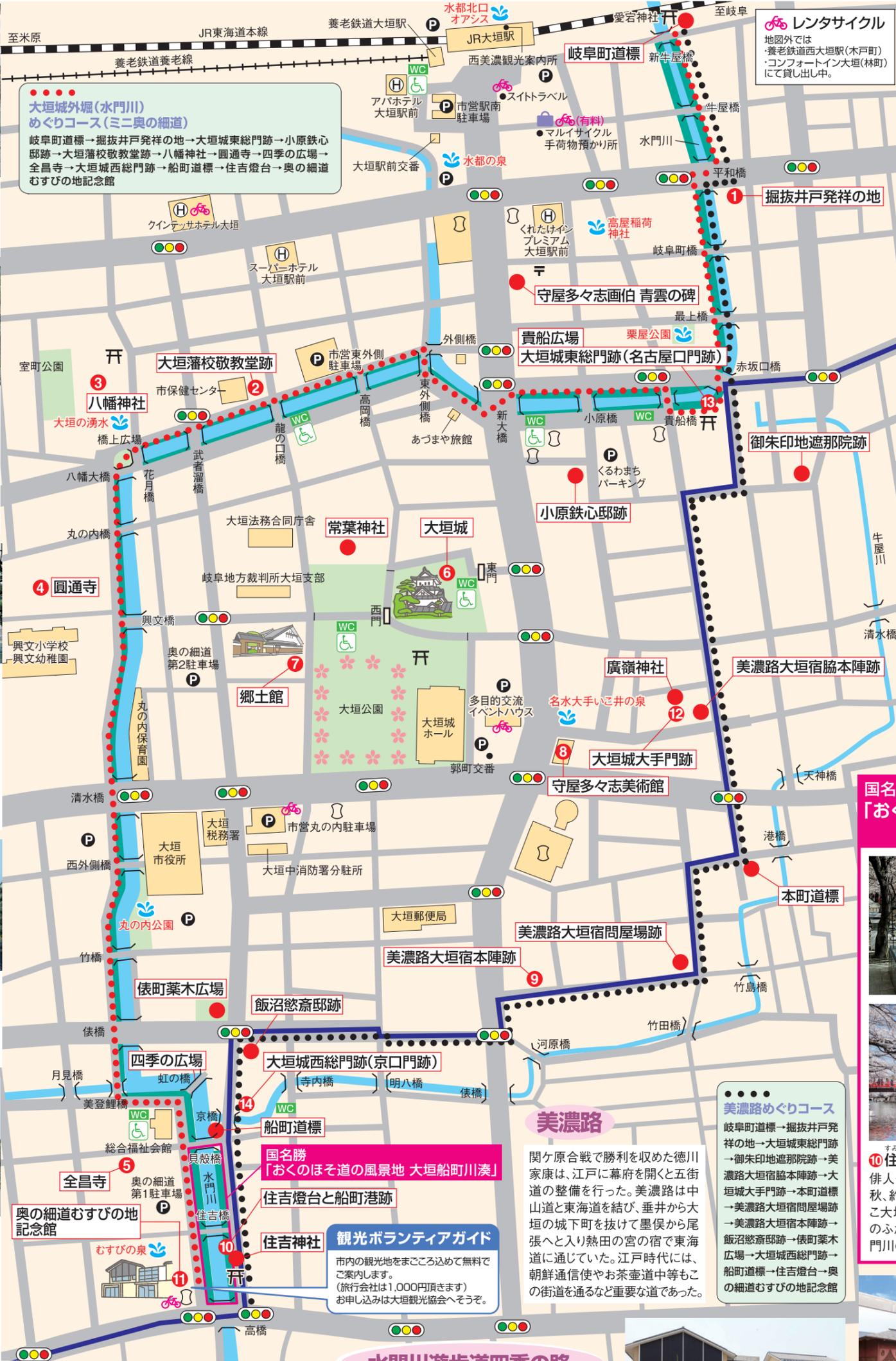


5 全昌寺(船町2)
全昌寺は初代大垣藩主戸田氏鉄の奥方、大誓院(徳川家康の姪)が建立したものである。幕末の大垣藩老小原鉄心や鉄心が師と仰ぎ親交を重ねた住職鴻雪爪の墓がある。また新撰組隊士市村辰之助、鉄之助兄弟の墓もある。

「大垣城七口之門」探訪 大垣城は要塞堅固な城郭で、惣郭には七口之門(七つの門)があった。七口之門があった辺りにそれぞれの門から見た、かつての大垣城の姿と門の説明を記した看板が設置してある。



12 大垣城大手門跡(郭町東2)



7 郷土館(丸の内2)
戸田公入城350年の記念事業として建設された施設で、歴代の大垣藩主戸田公の顕彰と郷土の先賢を偲ぶことができる。



8 守屋多々志美術館(郭町2)
守屋多々志美術館は、日本画の巨匠、歴史画の第一人者として活躍された故守屋画伯の作品を一堂に展示している。守屋画伯は、大垣市船町出身で、大垣市の名誉市民であり、文化勲章を受章された。



9 美濃路大垣宿本陣跡(竹島町)
中山道と東海道を結ぶ美濃路の大垣宿本陣跡。また明治天皇は、明治11年(1878)に東海・北陸御巡幸の帰途、美濃路大垣宿の旧本陣の飯沼武右衛門邸に泊られた。

国名勝 「おくのほそ道の風景地 大垣船町川湊」



10 住吉燈台と船町港跡(船町)
俳人・松尾芭蕉は、元禄2年(1689)の秋、約5か月の「おくのほそ道」の旅をここ大垣で終えた。そのおりに、芭蕉は「蛤のふたみにわかれ行秋」と詠んで、水門川の船町港から桑名へ舟で下った。



11 無何有荘大醒樹(船町2)
大醒樹は、大垣藩の藩老小原鉄心が安政3年(1856)に大垣城下の北、林村(現・大垣市林町)に設けた別荘「無何有荘」の一亭であり、藁の網代天井や紅殻塗装など随所に中国風意匠を取り入れられており、南側の衝立には、江戸時代には珍しい「ギヤマ」やと呼ばれた色ガラスがはめ込まれている。

水門川遊歩道四季の路

かつて、水門川は大垣城の外堀であった。先の大戦で大垣城も町並みも焼失したが、水門川の流れが往時の地までの2.2kmの川沿いは、「奥の細道」の旅で芭蕉が詠んだ句碑が立てられ「ミニ奥の細道」として、芭蕉の足跡をたどることができ、また遊歩道「四季の路」として、四季折々の草木が道行く人の目を楽しませてくれる。



13 大垣城東総門跡(名古屋口門跡)

14 大垣城西総門跡(京口門跡)



大垣城と城下町

大垣城は、天文4年(1535)、宮川吉左衛門尉安定が築城した(明応9年竹腰彦五郎尚綱の築城とも伝えられる)といわれる。天文年間においては、本丸と二の丸をもつ小城であった。その後、永禄2年(1559)、氏家常陸介直元が城主のときに城の土塁を高く堀を深くし、櫓及び総堀を築いて城郭を堅固にした。天守閣は慶長元年



大垣御城下図 寛永14年~19年(大垣市図書館所蔵)

~大垣城七口之門~

大垣城は、南と東を大手、北と西を搦手とする要害堅固な城郭であり、惣郭には、大手、南口、柳口、竹橋口、清水口、辰之口、小橋口の七口之門があった。
 ㊦大手門 ㊧南口門 ㊨柳口門 ㊩竹橋口門 ㊪清水口門 ㊫辰之口門 ㊬小橋口門

関ヶ原の戦い

慶長5年(1600)9月15日、霧が晴れた午前8時すぎ、決戦の火蓋が切られた。一進一退の攻防が続き、勝敗は正午になっても決せず、焦った家康は内応の約束のある小早川秀秋を動かすために、松尾山に向かって鉄砲を一斉射撃した。切羽詰った秀秋は西軍に対して攻撃するよう全軍に指令し大谷吉継隊に攻めかかった。大谷隊はよくこれを防いだ。脇坂ら4隊の寝返りにより防ぎきれず自害した。石田隊はよく東軍の攻撃を防いで戦ったが、小西、宇喜多の敗走ののち、ついに潰滅し三成は伊吹山に逃走した。こうして午後2時には天下分け目の戦いは東軍の勝利で終わった。西軍の本隊が関ヶ原へ移動したのちの大垣城は三成の妹婿福原長亮らが7,500の兵で守り、関ヶ原の戦い後まで戦った。このとき二之丸多門は、大垣の士沼波、松井ら七騎が防戦して守ったのちに七騎多門と称した。このような中、徳川方から使者がきて降伏するように告げたので福原は9月23日に大垣城を開城した。

~おあんの松~

少女おあんは父山田去暦らと三成に属し、大垣城に籠城していた。落城不安



おあんの松

(1596)、城主伊藤長門守祐盛によって創建されたとされるが、天守閣筒瓦に天正16年(1588)6月22日の銘が入っていたことから、建造年代に対する異説もある。そのうち、慶長18年(1613)、石川主殿頭忠総が城主のとき、八幡曲輪の総堀(水門川)や高橋筋、竹島町南総堀(外堀)が開堀され、ここに本丸、二の丸、三の丸を囲繞する内堀と広く城下町を包み込む総堀が完成し近世的城郭の体裁を整えていった。

寛永12年(1635)、戸田左門氏鉄が攝津国尼崎から移封されると以降11代にわたる善政が続いた。その間、寛永18年(1641)、京口、名古屋口の総門を修築し、同19年、東大手石垣と枳形、正保4年(1647)、二の丸石垣を改築。慶安元年(1648)には天守閣、櫓を修築し、翌2年、太鼓門の石垣、枳形と太鼓門隅の石垣、櫓も完成した。このように、大垣城は水門川、牛屋川(外堀)に囲まれ、惣郭は、大手、南口、柳口、竹橋口、清水口、辰之口、小橋口の七口之門で警固された要害堅固な城であった。

大垣町は城を中心に侍屋敷が広がり、町屋は城下を通る美濃路に沿って発達していった。町屋は10町あり、関ヶ原の戦い以前からあった本町、中町、魚屋町、竹島町、俵町、伝馬町を古来町、元和2年(1616)、藩主松平甲斐守忠良の時代以降に発達した船町、伝馬町北町(岐阜町)、新町、宮町を出来町と称した。また、町屋とともに享保年間までに侍屋敷が拡大した。このように城下町は城を中心に、江戸中期にかけて大きく展開していった。

~関ヶ原の戦いの前哨戦~ 杭瀬川の戦い

西軍石田三成は、慶長5年(1600)8月10日、大垣城に入城し西軍の本拠地とした。一方、東軍徳川家康は9月1日、江戸城を出発し、13日に岐阜に着き14日の未明に出発し、正午に岡山の本陣に入った。家康到着の知らせが大垣城に入ると西軍の士卒が動揺し始めたので、島左近勝猛は今一戦して西軍の威勢を示さねば士気が



野一色頼母の兜塚

関ヶ原合戦岡山本陣跡



関ヶ原合戦図巻 遠坂仲雅 筆(岐阜市歴史博物館所蔵) 上/石田三成本陣 下/徳川家康本陣

歴代大垣城主

年	代	城	主	年	代	城	主
天正	11年	池田紀伊守恒興	寛永	元年	松平因幡守憲良		
	12年	池田三左衛門輝政		9年	岡部内膳正長盛		
		三好孫七郎秀次		10年	岡部美濃守宣勝		
		木下美濃守秀長		12年	松平越中守定綱		
	13年	加藤作内光泰			戸田左門氏鉄		
		一柳伊豆守直末	慶安	4年	戸田采女正氏信		
		羽柴少将秀勝	寛文	11年	戸田肥後守氏西		
	17年	伊藤長門守祐盛	貞享	元年	戸田采女正氏定		
	18年	伊藤彦兵衛盛正	享保	8年	戸田伊勢守氏長		
慶長	4年	関ヶ原合戦・西軍		20年	戸田采女正氏英		
	5年	石田三成の本拠地			戸田采女正氏教		
	6年	石川長門守康通	明和	5年	戸田采女正氏庸		
		石川日向守家成	文化	3年	戸田采女正氏正		
	12年	石川主殿頭忠総	天保	12年	戸田采女正氏彬		
	14年	松平甲斐守忠良	安政	3年	戸田采女正氏共		
元和	2年		慶応	元年			

監修/清水 進

ミニ奥の細道周遊マップ



10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
出雲山 (山形県鶴岡市)	山形 (山形県酒田市)	越後 (新潟県出雲崎町)	市瀬 (新潟県糸魚川市)	那古 (富山県水上市)	糸魚川 (山形県水上市)	小松 (石川県小松市)	石山 (石川県小松市)	加賀 (石川県加賀市)	敦賀 (福井県敦賀市)	色部 (福井県敦賀市)
有難や雪をかほらす 南谷	暮き日を海に入らる 最上川	荒海や佐渡によこたふ 天河	一家に遊女も家たり 萩と月	わせの香や分入る 有そ海	あか〜と日は難面も 秋の風	しほらしき名や小松吹 萩落	石山の石より白し 秋の風	庭掃て出はるやに萩柳 庭掃て出はるやに萩柳	名月や北国日和 定なき	さひさやまに勝らる 浜の秋

始 矢立初の句碑千住
(東京都足立区・荒川区)
行春や鳥啼魚の目八瀬
「奥の細道」旅立ちの句
千住で頼み「矢立の初め」旅の折に詠み「矢立の初め」旅の句の書き初めと記されている
結 繪筆大垣
(岐阜県大垣市)
地のふたみにわかれ
行秋そ
「奥の細道」の旅は無事終えこの句を大垣で詠みました千住と呼ばれています。反原の娘れを大垣でいやし、反原は伊勢に向かいます。旅の終は新たな出発の地でもあります。